



令和3年4月16日(金)発行
校長 栗原博巳
北九州市八幡東区尾倉三丁目10番1号
HP: www.kita9.ed.jp/ogura-j/

<学校教育目標>

豊かな心をもち、健やかでたくましく行動する
生徒の育成～みんなで考え、みんなで取り組み、
みんなでつくる尾倉中学校～

<目指す生徒像>

- ① 感性豊かで、意欲的、主体的に学習する生徒
- ② 健康で明るく、思いやりのある生徒
- ③ 礼儀正しく、奉仕の精神に満ちた生徒
- ◇ 元気のいい挨拶・礼儀・身なり・学習規律と集団生活における規律とマナー

「中1ギャップ」を乗り越えるために・・・

「中1ギャップ」という言葉をご存知でしょうか。中1ギャップとは、小学校を卒業して中学校へ進学した際、これまでの小学校生活とは異なる新しい環境や生活スタイルなどになじめず、授業が難しいと感じてしまったり、体調不良などが起こったりする現象のことです。

ただし、中にはギャップをあまり感じずスムーズに新しい環境に適応できる性格の子や、小中一貫校など中学生になっても生活環境にほとんど変化のない子もいて、中学生になった子ども全員に必ず起こるものではありません。また、もし起こったとしても、その度合いには個人差があります。

中1ギャップの原因である、“新たな環境に順応しにくい”という状況。これは、小学校と中学校の間にある、様々な違い(ギャップ)から発生するものです。どのようなギャップがあるのか、以下にその一例を載せておきます。

■勉強面■

まず、小学校と中学校では授業のスタイルが大きく変化します。教科ごとに先生が変わる、学習内容が幅広くなり授業のスピードも速くなる、また、自分の定期テストの点数や順位等が具体的な数値で明らかになる、といった変化が挙げられます。

また、小学校では、担任の先生が一人で授業をするので、全員が授業内容を理解してついてこられるよう、進度や内容を工夫してくれていましたし、授業の進度もゆるやかであったものが、中学生になると基本的に自主的な勉強が求められるという違いに戸惑いを覚える子もいるようです。

■文化の違い・人間関係

小学校と中学校では文化も大きく異なります。毎日制服を着用する、校則がある、1～2学年上の生徒が先輩になる、部活動によっては練習に追われる、といった大きな変化があります。

また、他の小学校出身の生徒たちと新しい人間関係をつくらなければならないというストレスや、「中学校でも友だちができるのだろうか」という不安を抱く子もいるようです。

子どもが中1ギャップに陥ってしまった時、家庭ではどのような対処ができるのでしょうか。実際のところ、中1ギャップはお子さん自身の問題であり、最終的にはお子さんが自分で乗り越えなければいけません。だからといって保護者にできることが何もないわけではありません。

保護者にできることは、(もし、中1ギャップのようだと感じたら)子どもが中1ギャップを克服で

きるまでとことん寄り添うことです。まずは、子どもの様子をじっくり観察し、子どもがくつろいだり、安心して悩みを打ち明けたりできるような、リラックスした空気を家庭内に作ってください。

そして、子どもが自ら話し始めた時には、その気持ちを理解し、受け止めてあげてください。なお、「授業のどこが分からないの?」「どうして行きたくないの?」などとむやみに激しく聞き出すことや、子どもの考えを否定する、といった対応は避けた方が良いでしょう。

家庭内での解決が難しい時は、ぜひ担任の先生と情報を交換しながら子どもをサポートするなど、学校と連携してください。



学習面における中1ギャップは家庭での対策で防ぐことができる場合があります。まずは、少しでもいいので家庭学習の習慣をつけていくといいでしょう。「帰宅したら夕食前に宿題を済ませる」「まず尾倉ノートを最初に終わらせる」など、自学自習のルールを作って定着していくと、これからの定期考査前など自主的な勉強が求められるようになってスムーズに対応できると思います。

また、保護者の方の中学校時代の体験を語るなど、中学校がどんな場所なのかを常に話して、子どもに心の余裕をもたせるのもいいと思います。

加えて、中1ギャップに陥ってしまった時の対処法と同様、子どもが家庭内で話しやすい雰囲気をつくっておくことが、対策としても大切になってきます。一般論として、子どもは中学生になると、小学生の頃に比べ、悩みを自分一人で抱え込む傾向があるといわれています。(中学生になるとあまり学校のことを話さなくなる、プリントなどを出さなくなるなどです)些細なことでも親子で気軽に話し合える家庭環境を作っておくことで、もし問題が起こりそうになっても、深刻な事態になる前に対処できるかもしれません。

まずは「中1ギャップ」という現象が起きる可能性があることや、その対処法を念頭に置き、これからの中学校生活をしっかり見守り、励ましてはどうでしょうか。

中学生は大人の階段を上り始める時期です。成績等で自分の学力が分かり出し、思春期突入でクラス内や部活内での人間関係のトラブルも起きやすくなります。ほんの数カ月前までランドセルを背負って小学校に通っていた子どもたちにとって、「ストレスにならない」と言い切れない環境です。

子どもの生活習慣や性格などによって精神面や肉体面への影響は異なりますが、誰も少なからず小学校と中学校のギャップに追いつかず、何かしらの形で疲れが出やすくなるものです。

私たち教員や多くの保護者の方々もこうした経験をしてきたはずですが、つい「もう中学生になったのだから」「勉強も部活も頑張るのは当たり前」と言ってしまうがちです。そうした考えを一方的に押し付けず、子どもの気持ちに寄り添っていききたいものです。